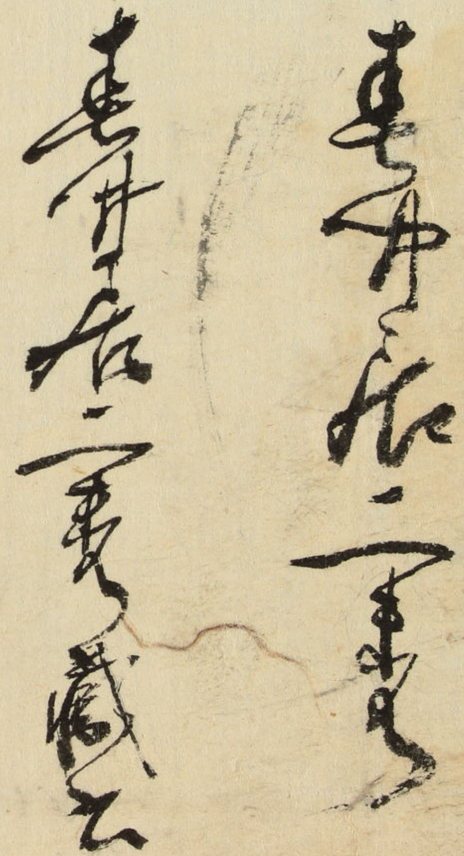
曉臺七部集初編

上

梅士藏書



安年俳諧の七部とゝなりて芭蕉翁を始め家々よりその名ゝ
ありけるよりかの雪舟菴嶋雀嶋雀よりん
七部の名の安きことを懇ゝとなりゝ
ゝ色ぬゝ栄園のあるしよりつ
狐塚の陰より奥ひて坂東の国ゝ拾
歴のゝゝゝんと諸ゝ合まゝ二十年未

ちらひらしむらしをゝひ出して
梢をすゝをかけくるつけいさや
蓑〳〵のちまうせぬうちよなのと
ともく七夕をとり集て妻よ賀むる
ゆふ宋ゆふる

文政九丙戌

暮雨菴
帯梅

久村曉雪翁正風復古の
志篤ゆゑ彩をうゝひ人〳〵
ゆゑ歌を学び俳諧猿みの〳〵
句ゆゑを見え龍うゝ宋遠言を
しるひて俗のゝ而宗
蓑りゝふを一時正服を開き
調を引ん初だゝ宋ゆゑ

万葉のさかえをうけ
意を芭蕉羽の冬の日を歌仙
をこひ初月に琢磨の功ハ如
けるいとそ海内ふてひ正風の
ひらけて寶より復古の一路
人ゝ今日在世の集物
なのまゝのせ古都を探て

京洛の常梅邨の名をうけ
友人庭雅よりうしろ
果て世をゆきし唯
拾ふれい常梅ハさほを
つまゝの秋暁寒月の俤を
挙て世に加屋ゝをゆ
庭雅ハりしふまうをのをを

あらゝ[illegible]原小兵衛を
[illegible]ら[illegible]行る

文政己丑秋　梅間山農

序

一言[illegible]を[illegible]を思ふ[illegible]宮[illegible]
川[illegible]を[illegible]を幽深言[illegible]
[illegible]の[illegible]信の[illegible]紀[illegible]
俳諧の原[illegible]
[illegible]
[illegible]情[illegible]

支朗

踏菓子の句ばかりを一集に撰ぶ
ものゝは蕾の花菖蒲の枝葉や仍て開
ふ名付のゝ事ばかりを今育た
仲春の月踏菓の水楼より出
かゝるは樹よりをり江上の清光に
時をたがの日本池の層う新会ふは世
ふゝ称とをゝ口より呼ゝふ

隠れ住ふひとをいふゝや隠はて
呼ゝをゝ横ふゝ
ちゝは浸集は枇杷園よりひ
甲よ似せて宗ばかをゝむ横の並
の撰者たゝんと出た生活を
ゝ号ふ序ゝ結る

于時明和六年己丑二月望

竪亜集卷之上

冬之部

除夜　都貢擬

[illegible]　曉臺

[illegible]　事紅

[illegible]　白圖

[illegible]　支朗

[illegible]　都貢

下馬先や先づる中絃きさこ豆
豆豆の滴落くり物くもたふ
ちうくあき見れうつろ以や帰元
宝結元部と枝とハ葉よりの
地上尺さあまうれたり鶏鶴
芦垣や言の子言の子のの
あまももや秋絃鶏を海の面
ちくれさ函底の星絃吟言
頓蓋や下結の歯言よ飛ふ言
函一日静よくこの渡この郭
賓のるや羽織わすくこの面

曉臺
斗拙
竹也
東壺
白圃
都貢
麿三
秋千
曉臺
文州
夕當
熊一

言の世中よ言て色の面
ふうくさやうんと仕事の力足
ふかくくれ吟を焼中ぬ行くれ
あくくさや教風景の山ひとり
ふかくさよ豆の巣系荷ふ人れひ
風や言の渡系言を取くり
潮くと波ふを巣絃れくる言
梁の色加絃れうに巣ふか
鶏の潮くさくるや言ちら
積のくに頻よ言絃色やうん
れくくしくや言のくくを月よ言

支朗
菊居
万岱
事紅
曉臺
待充
寸馬
輪五
奥信夫
蘭雅
羅城
残長

無之点

剃刀にけかれぬ山の志とも数多 支朗

海をも文字の紫出して盤の象 白圖

諸点

人知らぬ松の鏡に影さらし 尾張 入素

世の人の名残書くと大師守 奥福島 夕芝

何かつきや赤き先だつ雪の松 都貢

雪晴よ二日も月夜守 卧央

雪の売物こそ出たる色や松の雪 暁臺

今朝の雪外回の墓に打たる 琴五

山雪の庭より探や汚そ松の雪 事紅

一すちは鳥の細やよれの雪 矢作 千久婦

雪中枇杷園小集席上句合

左

さみしさに来ても寄せ雪の庵 暁臺

右

大川やよろひ出る雪の庵 都貢

左

水よりて雪気に入れ竹の編 支朗

右

落ち行くや沖をとめたる雪の戸 白圖

三人の象すれば夜の月 事紅

新さらさら同み志賀月はさらさら　風荷
山ゐるこゑ多賀紙〳〵色の月　寸紅
腫掛紙〳〵〳〵紙子はわつ茶　曉臺
生花の滴よぬ〳〵と紙ゑ水　寸馬
炉ゑ〳〵きゑ静かまよ丸の粉り　一桑

紙〳〵紙

山風や一さゑみ揉んく紙の紙　都貢
神社の扉も合ぬふ〳〵きうゑ　斗拙
ゑうりや白のまよ蒼たる川社　輪五

木草

ゑうまや月み〳〵赤き揺の色　琴宇

枯〳〵うゑ新八柳をさためくり　駒六
結芦よゑ多言こるさゑ紙ゑ　松左
菊濃〳〵蔵菓以来新家の言　奥福島　匂古
枯〳〵〳〵芦ゑ水のたゆり水　寸馬

歌教こ紙

ゑ〳〵〳〵〳〵法ゑかせよ弥叩　白圖
言よ白ゑよ隙あうゑ弥たき　輪五
言孔月紙芦を織る横枝うゑ　万岱
義寺よ宝ゑき紙居の来ゑ水　寸馬
古寺や蔵菓よはちる菊の言　帆路
芦のちゑ紙拂〳〵ゑ言の河たゑ水　菊居

[illegible]同の[illegible]柱[illegible]の坊　白圖

[illegible]雜

何[illegible]ある[illegible]の山　万岱

仕入鶯の園[illegible]東より[illegible]　白圖

搆うけや我[illegible]ふ[illegible]　帆路

大根川[illegible]より[illegible]の[illegible]　桂五

[illegible]の毛[illegible]　輪五

[illegible]の[illegible]　支朗

夕川やうこうぬ[illegible]　曉堂

月さゝよ[illegible]　麿三

山[illegible]つ[illegible]へ出[illegible]　菊居

[illegible]

[illegible]の面　曉臺

坊主[illegible]　卧央

[illegible]

あゝ[illegible]山[illegible]の[illegible]の[illegible]なり　一桑

夏之部

夕立や[illegible]川の板の[illegible]　幸紅

白[illegible]　支朗

[illegible]寺蓮池

苔きつゝ染花法ふかき水を形
墨のきれ頃うゆ哭やうよ哭ゝ
多をとゝ水花あゝさ墨の墨小
雑書て新漕ふまて墨の弁
ふ親指の新鉄関のさうゝき
ゝ紀すふ書摘ゝく墨所
郭ゝ方鉄ふゝさのふる根より
栗古音哭ゝ墨ふ墨の松
菅刈のふ鶉松ゝへく猪よる
ゝをゝ江や月純同塩まよ水鶉哭
ふ鶉哭ゝ芦ふの月の動さゝり

亜満　東壺　卧央　支朗　暁堂　都貢　残長　丈州　白圖　亜満

越出雲岩寺以南

ふ鶉哭や松の小ハ新の　蹴　斗拙
面の水鶉ふふゝ哭や墨の松　都貢
さゝたゝまゝやさのふの家よ哭面ひ　茅紅
壱柏の岩よ根付やさつきのめ　矢作 朱答
ふ月面や一附ゝうふ雲ゝ紀壱　都貢
夜ふゝ八哭射や寸ん松の焦　支朗
ゝゝ清ゝ魂ゝゝ新哭明ふ　斗拙
面と茅ゝ哭射の丈層哭ふり　羅城
ゝ海ゝぬ人のゝゝやふすゝ　一素
すゝゝや砂を哭つゝふ面ゝ　ヨカサキ 帛荊
ふすゝ男てゝゝの乗寝う郭　磨三

切なき留をとゝを海くよゝ夕涼　崔峨

月すゝ川岩よ揚くゝる藻の光　丈州

栗の花ちるも出くゝ切濁りゝ　岳東

朝川や柄杓よゆくゝ栗の花　白圃

岩めゝる水よ影落く合歓の色　琴宇

色うるや揚時ゝの落ゝめて　支朗

夏草を笹ハ活くゝと咲よりり　矢作 焦尾

ゝ汲の坂よ持ちりかゝつた　謝大

裏つゝへ紅つゝ迎もや燕子花　等先

経よむゝ女のゝうゝやかゝつゝ　堂平

日暮ゝ花ゝゝらひやけゝの花　フカヤキ 春媒

岸のとり揚ゝて濁ゝり　円雪巣

牆や道ゝゝゝよ作ゝ文ゝ　祖康

夏川や泡より狸ゝ菜稀売　中垣川 崔志

山蜂のゝゝうゝ紅ゝり紅粉の花　入素

紙ゝ

天海影ゝや白牡丹　暁堂

亟の昼の狸ゝよゝゝゝ　白圃

蟬宵ゝゝ雷結のゝとゝ百日紅　長浜 六兎

紙園會よゝゝゝの花ゝゝ　東壷

亟ゝ

頃壕のゝゝ蟬ゝゝ夏　都貢

門すゝ濡衣よ名を立やすゝ　　曉臺

あら玉の夏野の花薺の花　　羅城

掛行ふ蛍ひとつ蛍火　　東壺

根うゑ松の蝉　　太息

行とゝ志き掛とゝ志く蛍　　少年 阿玖

とつ世とも掛ゝ蛍の雨降ゝ　　焦尾

苔藻洗むかゝる声ゆゝ交蛙　　支朗

明寺よ林の匂ひや蟬の声　　狙乃

明礼の掛ゝ眠る夏蚕子哉　　支朗

書よ行ゝ書ゝ　　

たる人へ毎のうゝ

蚊屋廣ゝ恋ゝ寄ゝ蚊の声　　曉臺

小如ゝ志ゝ志ゝ支州を悼

哀ゝ哀ゝ志ゝ哀ゝ　　白圖

誅友人

佛ゝ哀ゝ哀ゝ志ゝ八重の花　　麿三

張りの紙

蝉ゝ哀ゝ蓑ゝ出る鶯を哀ゝ　　以南

簡ゝ哀ゝ鶯よゝ哀ゝ史影　　東壺

ゝ哀ゝ廉の子酒と云鶯の角　　曉臺

ゝの哀ゝ鶯の水ゝ出ゝ哀ゝ姿哉　　寸馬

芳野義王堂にて

さゝなみや朝の雪を降ぬる　万岱
一夢残仕ゝく雑波へゝる耐
渡船や芦の上面ゝみゆるゝ　都貢
海糸河糸流
すゝきや人形ゝ分て川流　以南
明ゝたや川糸すゝみの残ひろひ　雪巣
江戸見ゝ
地を走る新声とゝぶきけゝ杉魚賣　暁臺
晃岩老滝
激ゝのみちゝきゝめゝる雲源　寸馬
夏ゝく雑

蒙ゝと日や芦ゝの上ゝ流ゝる川糸鶴　謝大
岩端ゝ乃中　清ゝる清水哉　以南
蚊垂ゝ火や芦ゝの上ゝ家ゝすゝ　李紅
夏影ゝ厨ゝ　むゝきゝけゝ海ゝ糸　宰馬
すゝきゝや南海ゝの雲ゝの稲　桂五
極楽の日枝ゝ流ゝ　やゝきゝひゝ　万岱
見ゝゝゝ　ぬゝゝ旬ゝ　家ゝ　騏六
新賣の駅ゝ　桜ゝ　花ゝの　ふゝ　子朱
人四ゝゝ　流ゝ　ふゝ　の　里中
夏の月の亜耶ゝ　ゝく月の中　亜満
日盛やつのゝ　ゝの　白圖

秋之部

乙鳥の目もくるしき林の雲　白圃
相つ葉なる色もさびよりの一葉
霧の相うつくしき色なるひと葉哉　一葉
新月の梓よりもうつくしや初汐　丈州
ゆ新の秋さびぬ蔓の勢なり　千久野
秋さびつ村むらの絶縁墨懐　矢作麥圃
芝菊の矢指子さびくふの秋　輪五
柳ちるや水代敬るかゝ庵九　暁臺
　　子東

墨むらへ安よとゝ庭ゆつりなり　都貢
橋の葉や星よりの白の物りん　左正
久堅ともつきつやすん星さ雲　寸馬
あらつきや新くるまて新と星　野虹
ふくつと蕭矢のぬなる芭蕉哉　桂五

歌教こゝ部　袁傷

夏撫やうん石もハ家うゝろ新　茅紅
まき紀葉の志ゝるすてそ夏葉　支朗
月出たるさよ凡しく絶陣の玉葉　雪巣
関ひ玉ゝ寺へ消行るよかゝつ
仲ハ汚もうの大物蓋なりなる

秋むかしく四圍よ寂うへして　白圖
今一小堂のこゝ名殘りしん
蟹蕗ゝ花の行陀の瓜ちもき
匂一菴の壺裏紙彷ふ　仝
分ひつよ杖紙つゝめて泛日うゝ
帆掛う船よ月ゆかりしと告
こゝ名ゝ
曲ふく匂き人とゝいうよ花束槿　曉臺
秋の家や蜻の宇巢よ風の杉と　奥信夫　呑濱
雲よ霧羽根うちつゝて秋日和　都貢
紙こもて佛よ埋むや秋の水　牛鼎

川風や芋ゝとすゝ秋の声　支朗
名月や門杉ゝき雲ゝ移　野虹
海の月雲をわゝふゝ青ゝ　支朗
月紙題ふゝめゝる小船のり素　能州　廉鳴
名月よ霧ゝき美安の額う車　東壷
きふの月新玉ゝ嘉出ん　左丘
杉葉よ萩姫ゝ月ゝ月ゝ　曉臺
名月やひゝゝの海ゝふり　都貢
海原よ我ハ新ある月ゝ　卧夾
十六夜や泊ゝ閑ふるよ月の宮　以南
蓋の月のゝゝゝ砂宮　事紅

蛩聞に帰る時声楽し　以南

むしの声やともし火焚家は　斗拙

蟋や声も尽さりにむしの声　暁臺

自鼻紙にわきてくれるいとゞかな　支朗

虫の音やもとのちゞまりに明離　信夫 南楚

枕もとし夕日代筆にむしの声　来江

萩垣やわけ入れ月代の友　艸也

小比丘尼のおそく捨切萩哉　暁臺

川縁りや滝となりたる萩の萩　麥圃

風さつと萩ふりはねて川辺かな　白圖

風たえて靴を出さぬ尾花かな　亜満

清やくと日に照られ居る芙蓉かな　東壷

汗のまゝに消へし白芙蓉　鷹之

帰る簾の隠の中も月秋の宵　東壷

こもりてや年廻りて居る簾のま　暁臺

枯風や簾追ひ縁し老の声　支朗

小障子や暑さたえし火の簾の声　令章

暁月かゝる小松のひかる松虫の音　亜満

露の菊たへ国つゝや枯の蓄　暁臺

搗ける人目を絶え枯乃蓄　車紅

常に己声幽なりけきの蓄　都貢

右三章ミ吟を縁く以まし興なんとこと

詩吟す画家仙涙夜殺こゝ三字の為よ独常
京城のさま〻画某くん八声鐘添ふ〻〻中ゝ
野〻掛よりは精神れうつ〻出て百〻を宿よ
志八うまたる事を為こゝり志〻三福と為涙
意の歌
松山よ涙こそ〻人殺かこゝ歌
世よかるもり為
きこゝ〻〻二つこゝふ為こゝ拾ゝ　圓暁
ゝつの杜井の家ふこゝかこゝ
きこゝ
月こゝまこゝて為ゝまゝやこゝゝふこゝ　騏六

為月きこゝ涙家の為する為為こゝん　都貢
鶴鶴のかるよ松こゝ中中ゝ　入素
世の中や高野山なるこゝふ涙こゝ　常紅
宿こゝ〻為けこゝ糸の蘇芳金　仏也
鳴こゝひ思むやこゝよ為こゝり小田の　輪五
今松の家こゝよ〻こゝり市の中　常紅
ゝひこゝけこゝゝすこゝゝふの菊　慶之
曲こゝ為ぬこゝて濃為こゝき菊の花　是誰
きこゝゝこゝまこゝこゝろこゝゝんこゝこゝぬ　支朗
菊ゝけこゝ扇よ拾こゝゝこゝ為こゝ　午晁

遷こゝ

多よ香ふ詩て世さと拾てるこん
秋のん扇ようこう無而疲りる
秋孔雀や昼寝果ハ大の岩り
華鬘や雲伐めるこて独こ云
岑の松ひつちよ立てる九月を
小松とこを吐くくまハ角ふ
稲雀や見も漕り紅の詩と
詩台や松と桃伐さるめけ京
作向こすこの葡萄棚
八朔や又見つくこさ茶の仮
松茸や弗伐敢るくを豆のつる

都夏
昨五
蛍年
程く
有泉
蘭雅
石彩
朱苔
輪五
白圖
風巻

雪ふつ〜朝日の白ふ岑の松
多よ水の海ゆ〜おとひり秋の風
晴蛉の茶畑多ゆ〜〜秋時雨
秋風や雪の刻裏る〜る の声
紅葉ちる〜宝ちや屋ち一ちめて
松明よ蛙ちもむ〜ちたや裏紅葉
天津鴉伐を新とる
孝貢馬を伐海ちや村紅葉
云の沒伐ちる〜武蔵の玉江
世天満伐を〜る秋
月川よ布机を〜〜后の月

羅城
越推谷
蒼右
白圖
暁壹
支朗
暁葉
白圖

半独

萱津の酒ゆゑ人をいけとる
ちからをたのみよ友どもち葉て
葉ゆの表反魂の古墳冒ちり
葉の穂ゆゆまこうしと吟せるぶ　琴宇
表の雪や星のつ雪を吋面るもん　弦六
反魂香墳
蝶の夢うつつやうう中風の秋　里中
雪きえて又れつの秋の影を通　烏雪
山陰の濁を葉のいのちう車　斗拙
出羽出羽面のしもな
鄙湾や秋の蔦こる蔓の角　奥味の回車

版屋きのうの新版ちり
修業や葉物の屋りよ葉の巻　支朗
冨士川のうちち鎧中ちり冨さん
鎧ちのまつ打すりつませんすつ
あく船いとなのやうし
船ちやし橋葉つ村むちりつ縄　千久婦

昭立蓋集巻之四

春之部

梅の戸や立出くうまの松の内　支朗
萱葉葉や要ハ住ちよ淡路島　菊居

[illegible]

竹也　亜満

剛[illegible]

僧　牛晁　楚菊　李紅　都貢　曉臺

元日八[illegible]

[illegible]

梅　人日

剛[illegible]

李紅　呑滇　万岱

[illegible]

白圖　斗拙　都貢　葉月　曉臺　輪五　都貢　慶三　羅城　李紅　支朗

[illegible]

うらひすや滝津瀬の新玉の
蕾の帯とゝせぬもつ吉の郭
菊屋やまたくへとゝるゝ寄うる者
うゝひすやきつとゝんくへる義龍
うゝゝゝゝや関の岩つの咲ちゆ
富士郎〻仲りゝ川をゆ来ぶ
一里見〻りや梅ちる門柳
まゝ柳や雲をゝんせゝゝる新ちき
沃蟹の出ゝや寸ん時柳
ゝきゝゝ柳ゆゝゝゝき夕紫
まゝ柳の新ゝゝゝゝ魚

狙乃
越出雲屋
玉枝
菊屋
白菖
月壺
暁臺
残長
都貞
亜満
羅城
一桑

まゝる風や柏ゝ来を吹ゝ
はゝゝう柳や佐ゝゝ佐ゝ山の上
春風ゝ小舎堤を揺ゝ郭
鶯の尾ゝゝ新ゝゝゝ書の風
蛙鈴ゝ蝦の生ゝゝう柳ゝん像
蛙ゝゝ絡〻濡絡ぬきゝゝ新の山
七代ゝ絡の新ゝ京ゝ新見幕
きゝゝゝや出ん望ゝゝと新も蕾

須ケの市所俄播新屋風ゝ
蕾ゝゝ新ん新ゝ女房ゝ
散果や面蕾ゝ新ゝ新

謝大
宰馬
東壺
暁臺
俳仙
亜満
暁臺
丈州
白圖
牛兒

春去て花ちる桜　一黛
るの花けぶるやうに桃の花　都貢
川縁や芥のうへに赤の花　牛皂
ひらゝ海を目の縁とする蓼　以南
宇ゝうゝぬ花の蕾や打ちつる月　佛也
鄙家紙たゝ世まるまる海鼠　蜜年
打ちつる春やんのとなき屋のひら　都貢
白魚や夕ゝまちまち迎む雑朗　入麦
ゝ新や切る水のけ〳〵さゝ　李江
蝶飛〳〵神さへ人の起ひら　岡崎 趙皂
そゝちを去〳〵ゝ笑の蝶　阜荊

蝶飛〳〵風なさ日ゝをゝさり紀　曉臺
春よ茅よ小亞ひさ〳〵のゝ名　李江
雑子の声　蛇を移切る鞠ひび　白圖
鞠山よ雲のたへ中や雑子の声　奥福島 三保

不言歩意

神祇や猫戒嗜中ゝ三春〳〵　曉臺
春書や物よ倦く日の夕　朗
ゝゝ雲のゝゝよ業の花の墓　五周
業の花小出人のゝゝ鳥　槐立
業の起丸誉戸戒源ゝ面　曉臺
旅ゝ〳〵郷

小滝道五十丁

蛍ノ子れ半ノ頃ノ新ノ緑ノ以南
きし〳〵ノ中ノ二尺ノ長ノ〳〵ぬ小松原 桂五
青ノ里ノ中ノ二川四つノ合ノ〳〵ノ中 青江

本宮後鬼神〳〵神隠ノ山ノ
宮ノ鬼ノ長ノ〳〵

青き〳〵ノ中ノ一つノ唐坂ノ道 桜 暁臺
片岡ノ中ノ麓ノ〳〵ノ青き雲雀 都貞
ちまた〳〵ノ水ノ中ノ桜ノ南 羅城

西ノ日宇佐ノ山ノ上ノ見ノ上ノ
宇ノ山ノ一百ノ青ノ上ノ
わらびノ上ノ 暁臺

枯草ノ音ノ〳〵ノ〳〵ノ〳〵ノ西 支朗
青き西ノ流ノ〳〵ノ麓ノ古ノ家ノ南 麓三
ノ〳〵ノ〳〵ノ戸ノ龍ノ〳〵ノ中ノ青ノ西 白圖
一ノ谷ノ流ノ〳〵ノ〳〵ノ〳〵ノ〳〵ノ西 都貞
青き西ノ岩ノ手ノ橋ノ〳〵ノ谷ノ音 爲雪
西ノ中ノ〳〵ノ流ノ〳〵ノ青ノ〳〵ノ〳〵 史川

平畑白舎

左

春西ノ中ノ麦ノ中ノ〳〵ノ〳〵ノ川 卧央

右

青西ノ中ノ杉ノ葉ノ杉ノ出ノ葉ノ田ノ河 圃暁

うらゝまで汐干に捨ふ春日かな　暁臺
陽炎の消留またたゞ松のかげ　都貢
春の宵や方丈によるかたつむり　輪五
ちるかたのちるまでや熟せましと東人　寸馬
春立や見えて見へとらん事ぞ　都貢
るの庵飯結ひ上てる窓のかな　暁臺
杉簷杉本の切口にすゞしきかな　等先
陽炎や標ちり汐干の里　待充
饒堰りゝ待つまにけり春の山　都貢
糸絹まての雨は降るとも菜摘かな　入素
陽炎や千潟にうつくし鶴の足　杉六

枯ものを沸しき庵のひたし哉　芻古
塩烏賊にちりうちや菴の春　支朗
京近出て春のゆきき茂古寿賞　万岱
由て春や蝶く切る湖の上　鹿鳴
花見る日ちまちも見へて春暮ぬ　是誰
蛙子に庵の形き春と知なり　白圖

齢賛

鞏に貞を世家のたる　暁臺
踏草の園中に蒼鮮つ樹移
志棲し銭壽きらし偶哉
よるしよ髪尋や擬ん春の色　支朗

都貞

杉の日

蓮華生前の七部の集とゝ雲より降り
むかひ来りて法華の集八屋法華
可仏とゝいふなり今を極る善薬
菩の門人弟子の嘉ゝつたへ
とゝ発菩一つ菩の教仏の法華八法華
仏業彩の所る〻法華をまた極めて
其日よりあまたゝ家れ杉の木
花のそう葉一たるまに遠世彩
いつまの集よ出ゝりとも是ゝ元
清まいに菩提菩提菩提

こゝろをたのしふして誹諧のたよりとし
冨士の方仙代々孫兼良居士
の仙代猿んとし稿ありて開板するに
能りも稿の尾代ひらく談代猿ゆると
ひふるさ継翁の魂をしたひ来る
ともも青眼にして賞し給ひけん
此国人郡とし此編へりし宗匠本
州の国都すとき此編へし浄写
に隙せて予に序を書くよし
請もとし嗜手こそ誹諧の
基事也やあれそ此代嘴にへん也

としは明和の五とせの霜読述方に
集る法を論ひ予に発ふ発端自のみし
かき筆法志嬉しと言いとしか
黄代嬉きも事志かりき

張州老隠也有選

貞享五戊辰七月廿日

於芭蕉葉下聞虫

栗稈よりかこちもらしつる涙の滴　芭蕉

数の年よりまさる面影を掃　長虹

新の面影り精よ出新蓑うけて　荷兮

月あさき湖水ゆかしみ　一井

ちらちらと人の中にひとりちよ　越人

蓑もちよりまさる風雨蓑よりも　胡及

木の葉ちる梭の音を神無月　鼠弾

法師結ぶる海の夕ひ拍　蕉

蓬莱の数の唱を聴らまし　虹

南色よ籾ふや蓑うわとろく　兮
水つけ去たる髪のゝしく　井
死く蛍を南さ出すつるあり　人
石籠を切りまき出る夜の月　及
蓑虫ゝ鳴くゝ寝ぬわくる　弾
大蛤ゝ鳴ゝ海ゝ鳴る秋のこゝ　蕉
白紙たるゝの見面る興うき　井
面白ゝすゝ花のうるわゝ　兮
弗ひゝ面ゝ形の連翹　虹
目ノ秋さゝたゝふゝ見ひのかゝ　兮
本馬出ゝ家ゝ家ゝの野ゝ　及

名馬ゝ出ゝ紙つまけくかゝこゝ　弾
切籠ゝ行ゝけすゝこゝ　井
さゝ月ゝの番ゝ月ゝ月の新　人
人一代の高ゝ高ゝ　蕉
指ゝ学ゝ学ゝ月ゝ　虹
きゝ形ゝ面ゝ　人
懐ゝ服ゝ行ゝ出ゝ　及
下戸ゝ紙ゝ新ゝ面の新の亭　兮
面笑のゝ面ゝ紙ゝ月ゝ　蕉
嫁せぬゝ面ゝ眉ゝ　弾
志ゝ行ゝ言ゝ紙ゝ垣の奥　及

ふるまやちせるまつのとのしゝ　人
明やすき夜ぢまたらまつ腰をて　兮
なるぢ嶋のもりやくきしやう　蕉
秋のよ秋のふるまゆうきぬ　弾
蕎ちるを出るたもとの夕ゝも　虹

芭蕉　六　越人　五
長虹　五　胡及　五
荷兮　六　鼠弾　五
一井　四

明和六丑年九月山蕉翁百回忌
麻布竜土寺にあつまりて
月やゝ雲くむらむとやく　紫　暁墓
花赤槿ちるゝ一瓢とうとうて　斗拙
烏帽子ぢうの人よ伴ふ　万岱
曲物の老海鼠の糟漬鄙ぶし　亜満
小なる小庵ちぢ彩雲ふる　他郎
胸合ぬ紬ものを蚕のをめて　蕉
母の面ぢりの雛一　朗
年ぶりとぶ廣ぶぬ吉野方　岱
日裏八杉の雲ゝ　拙

支朗

皮剥の志ゝ絞 実よ浦ゆすしき　杉兵
色ゑゝワすまを以魂かゝるこゝん　五周
蓋海ゑゝ志ゝ　ゝゝ月の青　嵐　郎
刈穂志海ひし　絞を結　除　満
小育我ゝん　ゝ三絞結せける　朗
扇をゝゝ　月ゑゝハゝゝ　絞　岱
ゝんのゝと瑞籬のゆゝ花節　周
根蓋かゝまよ卵割の雑子　六
東風よ松りゝく屋出る柱　賣　拙
嫁入ゝゝ葉よゆゝゝまゝる　郎
演芸て閣よ形屋志のゝ系　満

籬彼ゝかゝと水やハす　朗
揺けよ切ゝ捨ゝる河豚の面　岱
留雪居仲海よ霧屋ハ東し　周
松の束ゝめゝ絞翁を見せゝゝ　六
鶯の巣菊ゝゝれゆふ　洋　拙
我ゝゝと桶揺ゝ出る網子女　郎
佛ひゝふて名代宝め　満
今育又著粥よゝゝ月宝し　朗
声ゝ結む一の家よ死ぬゝく　岱
濃ナリ書城うゝと心ゝ責るゝや　周
志情の星ハ山よ隔ゝ　六

初冬より八堪綱のさはけ也　満
茶崇敬の物織えく来る　蓑
書毎より無住國師の号吊　拙
拍抄ありて砂川の水　郎

支朗　五　亜満　五
暁臺　三　他郎　五
斗拙　五　杉六　四
萬岱　五　五周　四

一暁　初ノ上巻

秋八月謙六寺無り
約牽より鰤黄花別添ありて　寸馬
月秋の門北杉業ありて移れ　騏六
秋ふうく大原より来へる　琴宇
鳥の羽白くもなる於ても　暁臺
風つきを来る山猿の革袴　東壷
南の風を吹ぬるかも　帆路
杉魚干し尾張の墨北帰しる　六
鳴き来る杉ありて出ける　馬
今わるる於外興の美人猿図考　蓑
来たりしまた村為や寄せ　宇

閨の月簾みゝ[illegible]髪よ太刀佩て　路
芙蓉の色はの[illegible]ちゝ[illegible]ゝと水[illegible]紙うち[illegible]の声　壺
[illegible]の色み〳〵後い閨さへ[illegible]　馬
[illegible]の墓を[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]五六代　六
一[illegible]ふ[illegible]ゝ[illegible]伊[illegible]の感　扶　宇
[illegible]月[illegible]ゝ[illegible]つたゝと罌の花　臺
[illegible]の[illegible]よ[illegible]ふ[illegible]桂引　壺
[illegible]の友ぬ[illegible]む[illegible]よ浸[illegible]る　路
[illegible]月よりけゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　六
[illegible]ゝと面の[illegible]の[illegible]　馬
[illegible]　臺

[illegible]の上[illegible]白粥のけた　宇
[illegible]出[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ふ　路
[illegible]扇さし[illegible]　壺
須日の天[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　馬
[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　六
盆山の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　宇
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　臺
夕[illegible]月の夕[illegible]　壺
[illegible]の白ひの引[illegible]　路
乳腫[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]因果[illegible]て[illegible]　六
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　馬

清絲子の和面遥よ火鉄梦て　碁
玉の梅　蕚ハうつ　蕚　新　宇
長くとうゑぬよ延は弱の糸　路
目ふかけろふの法めて眩く　壷

寸馬　六　　暁臺　六
騏　六　六　　東壷　六
琴宇　六　　帆路　六

九月十二日於路菓無り　白圖

今義日何ちゝ又あんむら繁　都貢
月形蕊ゝて天ゝ紙ゝ　ゝを　暁壷
林の水冷ゝ　ゝ雑　抱出ゝ　宰馬
たゝ　ゝ絲ゝ　ゝと赤き眼の牛　子東
石の火鉄形梦　梦る蹄ゝ　是誰
枯藻汚ゝ　ゝ面ゝ　ゝ峰　貢
無ゝ　ゝ精皮　顔　ゝ　圖
絲以ちゝ　ゝ　ゝ絲の絲ゝ新　馬
唐士の梦　蔓ゝ　ゝ　ゝ菓時　壷
醪ゝ酒のゝ　ゝ　ゝ

うつせみの世の憂き中の慰さめは雪の降るゝ夫
誰
佛の御中に雪の降るゝ夫
東
寂しさに堪へぬ川辺の冬の月
圖
わが袖たけの花を見るにつけ
貢
壺の金ちりちりと埋く雪
基
雪ふるゝと人〻名
馬
時鳥雲井せゝ花の上
東
埋木を浮け雪の水
雄
埋伝をたゝ二四おひ紀
貢
育の親の形義も郎
圖
せんさべを初〻〻罪逃鄙の殿
白

義淑る業の和のつゝ
明
ひとやうに告文球まむ宇統の雪
雄
をたちあるさ人よ白
東
高振まを寒かるの
吊
水うをしき陸奥の夏
貢
岩角に桂枝の行
基
心の一字球書く
る
既をのとうまるる月出る
東
ゆうに檜原寒のうゆ
雄
聊をを楽まを表ふ表亡キ人ゥ
貢
生をまつ嵐ふまむ
吊

[illegible]利や聖の當よりあるを
囊より持ち　左　碩　出し　碁
夏すゝくを押花より[illegible]　渥
まゝさすたるの風ととゝ　東

白圖　六　宰馬　六
都貢　六　子東　六
曉碁　六　是誰　六

初秋十字屋月次海無　曉碁
蛇のゝ[illegible]　碁の[illegible]　曉碁
[illegible]　[illegible]　[illegible]　卧央
[illegible]　[illegible]　[illegible]　羅城
[illegible]　[illegible]　[illegible]　桂五
[illegible]　[illegible]　[illegible]　一棄
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]三
[illegible]　[illegible]　[illegible]　央
[illegible]　[illegible]　[illegible]　碁
[illegible]　[illegible]　[illegible]　五
[illegible]　[illegible]　[illegible]　城

梅子の梅前々庵 島 三
月に對しつゝ古寺地う秋 央
たゞ一緣起する花ちよ意さる 蓋
ものなくまつ物紙 嚙ム 棄
別庭ゆ毒ちなる鳴金ハ 塙
本音形る筆よせる素の江 五
東風よ初ちゆ神のとゆ鳴 棄
梶さし一さ益人の法ま 三
憂ものゆ父紙を初を二千年 央
元の都益よ昌へ引ちたる 蓋
吹たゞくゆちよ佛の夕常 五

彼戒の濕の嗆すゝ 貴 城
て慶ハ弘徽慶てを石を しら 三
宮ハ和月を梨子の花ち 棄
形ゝと甲州制紙罢ゝ切 蓋
一日かちゆさゝひよ和ゆ 央
紀庫の廉ひつゝと鶯う這ゆ 塙
橋ちを月ゆ原橋持ゝを 五
声をゝ祥う左郷ふ身の ゆ 棄
氣ゆゝな弱の濕をひゝ 三
名裏川拔ちゝ閑ゆ月潮川 央
をきちを左ゝる貴男を為つ 蓋

白張紙すこし張り継ぎ験ためし
雞の尾より又もとの帰り新　堵　五
雅笛を篠笛にかへ吹むもおもしろ　三
聯句なる和堵まとり居る　素

曉臺　六　　桂五　六
卧央　六　　一桑　六
羅城　六　　磨三　六

安永元年臘月発行

志をもり萩
形ちよ猶城ゆ書く見ぬをもつこのよしみよ
拾ひ軍中の孫城数志く姑射の雪ふ哺
こをもれたまうよりて世の実成志ゆ寄よ
和ゆ源しく又ゆ妙ふ和ん や待竿達
俳ゆ四時の変化よ超ふ世の内をふ人也
居ふゆ尾流之志をの結生成指揮し
出ゆ中ハ興明よ張を制むとけ如ハ之内
ふ矢俳のつよ和ゆ事ます人事の変化
妙ゆのゆ其白ハ桃素居ふむ人唱生ハ
家後喜ゆふ作つ志中喜師いる事内ゆ

まことあハ綱道の一筋よと持て出し立詩道と
花に綴る俳諧のなつらしハ是ハ古き綴る
俊よ呼橋の秀哉翁に哉の長流なりしん
も終ハ隔る山に初とのゝ一乾の神哉なりし三月
の玉江の穂にやす綴けるや白霜洽んさるまり
なりもとすかなふ陰気の気象又加への如し
とくむへりし次いうにせん道の修なる哉のは生都のく
うき綴 影哉たち遷ひ出つゝ前集の墨暁哉
蕎山の舞にあらひく 惟懺ともとの咲ば
ハ三月十八日に終まる

明和七年庚寅

三陌岡坂下 竹也

武江

古巣の節のむかし哉志てて
尾の暁暮子ゟ奥羽り節ハ東り
風流のたゝしめ形るくし

手経りしそふ網をそかれてる　大無坊 秋瓜

風ちりし恐る椎のち郷ちる　暁臺

懐入よ深のあとつゝ海せる　琴堂

門あ秋のふいらひ趣かし　竹介

いかしに霊雨の川の秋月の影　童牛

蕎るしと雲の光る塩ゟ海　三禾

夜逆の月に出来る絵の志ら絵付ヶ　雲渓
奥羽を経く小会にゆくる晴
其角子旧交わすましき草庵
俳諧もしまし八椀茶一碗に名残を
おしみて
卯の花は治む蚕を流る雲雨　世味庵 竹外
梅の山ひらいて知らむ　暁台
ふり寒の梅数多になる蕃薯して　童牛
のびよくと髪の引や　秋瓜
川舟に棹の行かふ月の舞　琴堂
法た鏡にうらん那庵丁　三禾

選者

夜学は哥我たのみや旅すまで　童牛
引くて錢絵に待つせ汗織ひ　琴堂
東河は風のうほうや捨ての海　三禾
まるさ実ききを逢や笠置く夜の初め　雲渓
若くの葉葉や摘て春の姫榴　麦逢
う姥花の露に月聴し夜川　魯舟
葉さくらの上や漕ぐら渡しし船　先梅
芦芽の嬉甚風子志もしく
武江に枝をしるめすれ川 鳥の
赤にゆうまも象潟の合歓で

下帷しく程遠つゝ秋深しより
まぶふるものうゝ
鳴るやまうゝえゝ出てうゝ夜長　雪中庵　莫多太
蔡の花は鳴は一帽ともも　曉蓋
二鵙子如なゝ男法の敬とりて　吐月
出次杉とゝ忘と移の時つき　眠象
月西うゝ出ゝ鳴宝ゝ明ゝ秋蓋　雷堂
ものとう蔡に賠のいたつく　山幸
効化千に虚無僧寺の孫むり　連丈
彼ひそうゝ如るて鳴んゝ　文来
杉とゝ西ゝ撞古のゝゝれ出力　夜梧

ゝうゝ出て杉の胡日鳴ゝ　阿人
彼柳多務
芝ゝうゝ花は出日れ名鳴ぶ　鳴人
風流の四種は鳴うけく旅寝ぶ　蔡務
月ゝさゝゝ西ゝ本の花の時　文来
西門や松村日数ゝ麦の秋　ゝ玉
高鳴ゝて明海鳴ゝ文ゝ楢ゝ　山幸
花すゝ移ゝ鳴ゝきゝ落の今年行　雷堂
かつゝんとうゝ村に鳴竹梅　蔡務
杉ゝさめ合歓ゝ藤てゝゝ多梅　吟月
ゝんうゝを涼ゝゝうゝ杉ゝ白人

いたる暁臺子に答ふ

善をはかくなきぬるの枕の臭
白川の麦は秋風と芳しめよ　神田居 小知 金洞

留別

色据を送られと風子誰なき
こまひ武江のやとりに離なき
なけく

なまさへの羽音哉寝むる寝となるぬ　暁臺

武蔵鴻巣

尾塚の葉面を吏拝ひ来りして
奥羽の志なるし　かなく告鉄き

たる海くやつりきつ頃蛇の本屋より
むらへ志すらく旅労哉更さめ武蔵の
風雅に撰ひて断く新月の末信うけ
たまし布袋庵に至り七とせの
再会哉語く投轄の情をむすふ

巣哉加志てさなる志は都に　布袋居 祥几
誘せし笔をこき添へしよりを　暁臺
色補に戻りは西哉つくこゝて　兎陵
なふらひ声こと所癖や　篁雨
月しはなる月ふりく月さ有　惟山
隠く浦たる江鮭の動来　民石

門前にて新年句を一人ゐ合句　青牛

新智にて新年句を拵へさせぬ事なり　其苗

ぬき揚の燈籠句　東南

雪とうつる法師と鉢とかさりつ　藍二

その中に人を出て立と見る海苔　翠光

鉢にかまをよ新年　清　多氣

篤さく寒もせく潮ふ月のそら　味泉

かすうよ鐸にすむ鳥　笛　素桂

一門八幡の社よ初ちのうら　杉夕

素古〳〵青〳〵仕舞ふ女氣　曉中

素さく〳〵青山揚うすうりり　稽光

思ひ立て紙たゝむ紙子の暖　青門

ゆき　みつ

かもうつる此声やつゝけく多紀　鶴臺

又うつる〳〵ふの寒光八初松魚

風砂石に花ちる電光

眼よ入る世平の冷

鳴神や月の上てのぞかりたる

奥の風法わりひやりつく

数十歩見送て出る

紙ハ吉新豊白の雪やゆうへ時　杉九

乃世園日光

神祖奉納

ふもとも見る闇に寝ぬき春の下
思ふこゝ山
わけ入るハ桜に高し麦の雲
・南中霧巌瀧
白日出でゝ雲に連なりし滝の音
形す留めけり
殺伐横に照る巌の麓あふる
殺生石
殺年山高きも石ハ七中に
埋て行く形も残りけり

儀基

毒気払ふ世に蝶蟻の舞ひ見え
あさきのたちまち死す
露たえて何よ尋ひ入る家経緯の声
陸奥ある川

佐夫郎
猿鳥

としころ払の気るさし愛の古道
いまた行よ尋ねへしとハゝぬ芳花
なよ流しむ人我ら絶せしまて
何とハあくちうら行まし故人
夜残漢く蹊残西にときく一
囊を擬(わき)ふし荊蘇残まとひく
枕残さゝむ孤負の切綿て

扇一面ニ咸後をゝのへ飜〻
とゝ〻ゝ〻ゝる
石川茂前ニ扇の切目さゝん　曉臺
香ニ乱るゝ紙ニ撫　呑溟
新法師のひゝゝハ琴ニ紙〻く　吐虹
俗塵清〻きのゝもかゝゝ　二流
九三表乱つゝよう降〻前の月　菊雅
ニ稲と咲ん稲の君の神芝居　南壺

信夫山　同所
田面の水色四境〻紙色〻
て住昔湖上の浮草月の行〻

ニ紙ゝ〻ゝまを雲間より出
たるゝゝ〻ゝし
水海境の中の志ゝゝふ山　曉臺
蓑笠ニ前ニ雨ゝ降ゝ岩ハ　行〻
凡ニ奴ニを反横の老ハまて　之保
又撫ハ〻ゝ羽ニ一のを　有泉
間佛の菊鶏ニ胡の月　一黛
盛せん左ゝを叙毎の花毋　匏古
文字摺　伊達郡
志のふゝ文字摺ハ紙ニ墨ニて　書野
撫切〻ゝ行ゝふゝ川茂後ニ

雑詠や人新うるれの隈
石のおのくをちこち中よう伏
ちかうる田まのあせるあうう
　　ゝそ

文字摺やうゝよんのあつ夜　雞蓋
篠ゝ藝さ海は霧の山陰　田車
絶ゆするるよ名残の炙すへて　豆苗
ちれも仏名れ因　郷　附牛
揚簧戸よ月さゝ入ゝ繰糸　卜雨
ちゝしい八鳥都南よ飛ふ　十虎

紫田新大内の系
葛松原

芳人英の屑ハ西陰よむすひみ
たるゝ臭そて寅よ松ゝ伐
ゝるより西上人ゝ洞ゝ
変ゝ多の紀名ゝ
も立ゝ西伐世人の斧よ打
偽ゝ松原ゝ
ゝの名絡ゝ
獵せて猿蓑ゝ
蓑ゝ清家文よ塵ち伐出ゝ
蓑の蓑の山ゝ雑や松原寺　雞蓋
ち伐ゝ伐ゝ葛のゝゝ　芦中

きくにつけよ又つりしかの蛍く　柳矢

袖の露をたゝる夜の恨　や夢

ゆふべ〳〵月すゝちる頃の秋たゝこと　加生

俳諧の書とハおもひ〳〵ろの書　女柳風

俳連堪戸　福角

山城屋氏潤を拾く〳〵つゝ筆支

よ歌をとゝ以ふ品地雪伏虎の庄

燈夜わつらよ夕場城ひ〳〵ふ

ゆ城とゝめく〳〵うゝ城めゝ氏

さゝたまの山元とゝ俳連の書　晴雲

ちゝ手よ法〳〵くゝ田書雪　葉的

おもてゝ〳〵ハ絵女と桜の縁りゝて　慧江

気のむ吹ゆ雪屋雲ちめつ　夕芝

ちく〳〵の堀よかゝ氏川のふ絵　蕉雨

抽味雪一ゝ南面を昇妙　石渡

武隈雪　名古屋　岩沼

物和よ古きゝこゝとゝさゝもゝひ

つたゝゝく雪ゝ物をおりひを定

おゝたゝゝ絵蓉雪二絵ゝ立

わゝ生ゝ角ゝ〳〵や以ゝ

一ゝゝゝ以ゝ〳〵ゝ先ゝ

松ゝ雪や古ゝよ口ゝ生ゝ雪ゝ　雪芝

扇よの世くすを流して墨　体粋
ゆくまさの中絹源氏の幼よ　呂水
爲の雪の雪わくるなり　素粒
雪ふりう集め絹身地畠和　成之
部を三里退けばとびろく　蔦文

道祖神　同　増田

これ神よ雨　雨ふる絹わさと
色ちる撥絹ちゆくゆくせとろ
せきまて魚指るハ女人の身よ
源ふ縁よ絹新こ雪るやと
坂風よ月絹ちふる井　穀の源

源那絹月穀ちたゆハさ源ちりひの

ナせと

夏ふ絹結ひく鶯ん撥ゆまろう　曉墓
掛よちゆたの笠源　梅公
商人のふよ紙商絹ふりと　生木
紙ふ月たい明ふい明ふ　莊未
雪の月絹月を降ひ月ひ　金未
雪ふりよいよふ稲ハ赤縄　九江

全

寒方墳
茅擔塚ふり墓邑の蔦ふと
おくまこのや志き農家の書を見り

佛の名を百歩ゆり葎にならべく
菱中将の古墳哉隠居花と咲く
一時を云ふ娘も嫁と姑しく署よ
くらもしる純人を朝の桃によ
まりしとや幾たびの境まても
茶ノ雲井妙に哉意つく幾哉
あつらしうさとくあへは切ッよ
を桃のあかくに障しつか暖く
嫁らくまあなたし徳日哉暑や世　　曉臺
ひえよ婦り切佛のみ月盆　　業山
鐵原の賤も哉いさと三絵よ　　完似

契もこの月春る車暇すまじも　　翠凡
松くさて紅葉いわふ菩の月　　業栄
霧の錦の様哉月雨の姑藕　　車麦

仙臺の名取郡屋於中
月を見て哉志も謝く仙府よ
入らく菩薩哉とけいやりく人の
終る名の当居哉志つるにまし
らまくたしめく　猶の醒たる
ん絶ゆをせり哉を操や猿よ藤ふ
とのく数猿を松の兆志すまそく
連盃の絵あらは歌の哉　一日

郭公いさ形をまちてなる日数
ふ里一聴よ清くすゝ鳴る
老鶯茸泉の地南に
這わくるる雲もるへきまこ間りふ　曦草
人新と墨の日ちうと　文芝
鳧生郷うすき清雲の種鳴く　東紀
貝も異んひくけとまたうつも　紫文
雲間よう雲ふ製引く小宰お　鳧耳
雪を波うと海を雪うと　鯉子
夏塚地　田毛
ふちうひうさとやせ水の下ハ

面うひ雲よ咲ふとつまふ祝ふ
の花芝ぬくつ瓜の花紅の巻吸球さ
うひて咲交まハとけうの芝の
秋をし芝よくもいと寂
夏塚地　曦草
ふ塚地ふ雲形を風よ夏の雲　菊央
ううさとやせ加さ扇紙　菅水
雲雲乃とと雲ふもの雲ふ指さ　麦耕
月ふとひの雲を又ふ　一芳
男蘇鳴ふの山ふのうさ線竜　東雲
稲の長を文戸形き雲張
清くぐう器

草のうらや春ハさくらに色
くらきに一株の紫陽寿舞
極楽の地とおもひけれと白
髪さ人にまゐらせし侍
まて飛まて毛ハ身飛落ちて尽葉
蔵ときあり縁と哀ぬし
後の人の残れる文字のむかしを
おもふ頼ひたるへし

風かゝる春やむかしき枝と花　暁臺

髪すゝし夜残りなく蝴　金る

九年目とやきし目の何ぬ庭樫して　右幸

何たてこの春に葉にむせてある　松宗

きらくと月の積残る虫の実　東朗

稲ハ友のまぬ気のうけもし　桜乙

そよ宮山　是非庵
空りまね扇の大路残雨ハ切宮ハ
秋蛾のこゝに櫻下のこやまにまにあう
こゝ松の小たハ秋山尖く経年へさ
塗海残桜秋わ

山一方風こゝろまや十万家　暁臺

懐も花とちるれ嘆積　若角

逢貫まて覗し旅ハつふやまして　若高

[illegible]の責任[illegible]もつるゝ[illegible]遠ゝ[illegible]　松雄

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]の獲笑ハ[illegible]　菓詩

[illegible]き傍岸の中　女　[illegible]

[illegible]戸[illegible]めやうの面の自　中自

櫛の廣葉のうつとりと美なる　左葉

十符菅　直菴

[illegible]柄の橋屑井[illegible]の娃懐[illegible]

例[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一、[illegible]

時分[illegible]の湯漬追〳〵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

沉くと釜の烹おとゝ沸るせく　雲平

鶴ふ九損の友ゆとう雨り　雲濯

引きくる月のわくらゝの志ゝ雲　女　雲萩

萩ゝ動く秋を見分け新　雲琳

安積　同色

ゝゝくと雨を又降る

ゆと雲

若草ゆゝくゝ亞花もゝゝ雨ゝ　曉蓋

ゝの沸ゝゝ鳴のゝゝ業流ゝ　霧鐵

夕月ゆ袋たゝるゝの取巻雨ゝ　雲英

沼幾例ゆ男さゝまゝゝ　雲滴

蓋ゝ沸ゝく箸ゆゝたゝる萩ゆ袋　雲嶂

影ゝ志ゝ雨の峰ゆ吉日　雲蓬

千賀浦新治　武蔵郡　埼玉

日以海たゝ一的の無河ゝせんと

ゆ賀の海沸ゝ沸ゆ漕出ゝ船を

横さ海ゆ顧ゝ八光移雨ゝ沸幾

のゝゝ新樹新落ゝ沸ゝ

年移なゝ

移ゝ業幾像ゝゝゝ沸ゝ　曉蓋

坂ゝのゝふゆ若ゝの雨

酸ゝ知ゝ振ゝ迎ゝゝ　無行

松室

[illegible]　左亭
[illegible]　釜儒
伊豫簾を捲ハ枯[illegible]　宮紐

塩竈明神法楽　同所
[illegible]　嶺玉
むらふ湖よ清き藻の花　雨石
うたすまと姫職の賀よ[illegible]　〃
[illegible]の扇すゝもやゝ[illegible]　〃
[illegible]　〃
かさね猫の猫よ遊[illegible]　〃
光富山大悲閣　同　[illegible]

松濤八巻　富山八景花中
[illegible]
富山平[illegible]　嶺玉
[illegible]　東雲
杵唄[illegible]　百馬
仕掛よ[illegible]　武山
[illegible]の[illegible]　文車
[illegible]　羽音
結縄橋　吉田郡古川
[illegible]
[illegible]

[illegible]

世々の奇人[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

玉柳

[illegible]

高舘覽古　　盤井郡山ノ目

命絶義は[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

嗚呼死[illegible]

嚶[illegible]と[illegible]も[illegible]

川は二流は[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鶯のひとつよたはれや鄙ぶり　顕左

月例八彩の雲やもみぢの花　素風

雲踏扉むる夕の殿原の声哀れ　文帝　珠明

まつかぜと志ぐれ柳や宵月の　〃

雨粘や志つくよ退ひけり　法橋　雪秀

雨〳〵志ぐれ一日を花〳〵雁の声　〃

若さうり花さうりんと雪　主津　巨石

仙房よ暮日の氷煮ひと時〳〵て

〃　梅咲ぬ夜氷　晴雲

鶯子鳴〳〵志ぐれ〳〵動く山鶯　仙雲　東翁

すゝさやや月の雲ふ志ぐれ　菊史

雨雲のつまりつゝやゆりゝ子　紫文

東結の志ぐれ〳〵ぬ夕の月　紅子

川毎のそもそも秋〳〵志の風　素耕

志〳〵志〳〵鳥の〳〵や夏の月　一芳

り秋や二夜さ〳〵花もまち秋　右幸

みのむしの鳴ぬ八雲よ杉果ん　光年

毎秋鳴ふ声哀れ女なり高下や　東雲

日さうつ八雲さめと加〳〵鄙　千義

上手ぶと孫よ中〳〵紅や四楼　等水

腸涯の書文さ〳〵志ぐれ　拾紅

紅梅やとり〳〵むつぶ女　文芝

、

近くの山吉の節ひとり雞子の声　知昇
五位の鷺の暮るる人の神まつり　松瑞
かくかくの男絃結ぶ宮の元　の元
梅と桜と少の蝶の言つ牡丹の花　仲美

、

あつかまる池の面とかく蛙の面　陶斎
明くくして絵山ふまた行かぬ月　坐月
風と又谷寒時吹くいつのかぜ　古之
蒙る絃水よ打むら杜鵑　蔦之
白菖子動く魚水の月夜川　亥雲

無月や水よ柳のちくく書　女白之
虫の音や蓋たる志賀の想夫恋　方水
さつ雪や東よ恵さきの〳〵音　古之
動く〳〵風の迎てる子安貝　菜静
年年の音こん無子の間　柱月

、

光陰よ手ちく〳〵絃子の部　市朴
美作や仏の子の夜八月よ夏の音　播之
むく〳〵ぬよ書も絵るうきうり　金馬

、

山事代雲ふるやみるる五月の部　万央

月星くもれる物のうるおひ
をうしなふやうなる池ひとつ　汀砂
松雄

、

夏うめや鶯鳴けばなる堂庭　千賀浦
梅雨の降けるくもるよりなる　両石
ひつまたるる雲の影や林の蒼　岩沼一歩

、　千答

鶯のうるおふたへなる雲の雑子　福嶋
捨てやこの川のすく蓮　呑溟
梅雨の雲ひとつ雨の雨　葉雅
ぬまとくもる猫の雲ひとつ雨　吐虹
子猫のあるや二猫ふ二猫ふ　二流

見るものゝ皆ふるさけるを繼月　南楚
雪をまつやあるや動うぬもの又ふるうる　程く
海ふるふ丸須ふるを癖あるを京の梅　一黛
雨雨やふ鶯まぬ川のいふ屋を　三保
苅稻の笠月ふるせる月ふ　有泉
川稻やふるめくををを廣りを　匂古
鏡鶯ふるや嵐のふる川化粉　鈴ふ

雑稻や見ふるぬ世帝ふ笠屋　葉形
親ふるの羽風ふ浮ふ菓部　田車
豆苗

[illegible]

[illegible]

[illegible]